

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100295		
法人名	医療法人 芳名会		
事業所名	グループホーム こんね		
所在地	宮崎市大坪西1丁目1番56号		
自己評価作成日	平成 22年 9月 17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100295&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局		
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101		
訪問調査日	平成 22年 9月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりをつくる為に最も大切な事との思いで、開所した時から隣近所の方達と顔馴染みになることに努めています。今では気軽に挨拶を交わし、立ち止まって世間話ができるようになっていきます。そうすることで地域の事を教えて頂き、情報収集に役立っています。利用者の介護については、利用者一人ひとりの方の思いにもっと寄り添うことができるようにと、センター方式を取り入れ、職員皆が同じ気持ちで取り組み始めたところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家に囲まれた住宅地にあり、近隣には病院、郵便局、コンビニなどが点在し便利のよい環境である。ホームの周囲には緑も残り、柿の木には毎年多くの柿が実り季節を近くで感じることもできる。開設して2年が経過し、地域との関係作りも積極的に行われており、自治会に加入し近所付き合いも日常的に行えるようになってきている。また、母体の医療機関も近く医療連携も密に行われている。ホームの運営においては、独自の理念をわかりやすく具体化し日々のケアに活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で普通に当たり前に過ごして頂くとの理念を掲げてケアに努めているが、職員間でまだまだその思いや実践状況に差が感じられ、常に意識していけるような工夫が必要と思う。	管理者は理念を具体化し、日々のケアの中で職員に話しをしたり月一回の職員会議など通じて理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中で孤立することが無いように自治会に加入し回覧板等で情報を得ている。散歩のついでに近所のお店に立ち寄りたり、すぐ近くにある美容室を利用したりしている。	日常的な散歩や買物で、近所の方と挨拶を交わしたり話しをし地域交流を図っている。また、自治会にも加入し情報交換を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に、出席して頂いた地域の方々々に施設の状況を伝えたり、認知症に関する資料をもとに意見交換を行い、認知症についての理解をして頂いているところである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行うことで、施設について少しずつ理解して頂いている状況である。出席者から聞かれる素朴な意見等はとても参考になっている。	2か月に1回の頻度で議題を決め、地域の方や、家族の代表など多職種の方が参加し開催されている。会議では地域の老人クラブの活動案内なども紹介され双方向的な会議となるよう配慮されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宮崎市から送られてくる情報を得たり、制度等でわからないところを電話で尋ねたりする程度で、積極的な連携は取れていない。	不明な点は、市の担当者と電話で相談したり連携を図っている。	さらに市町村との連携づくりを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から、職員同士で声かけ合いながら取り組んでいる。	日中は施錠することなく外出傾向のある方はさりげなく声かけしたり、一緒についていくなど安全面に配慮した自由な暮らしができるよう支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ことばかけの仕方次第でも虐待につながるのだということを常に意識したケアに努めている。職員同士で声かけ合い、会議でも取り上げたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業や制度について学ぶ機会がなかなか無いが、機会があれば積極的に学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書をもとに説明を行い、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、どの職員に対しても何でも自由に不満や苦情を言ってこられるような関係作りに努めている。	家族の来訪時など意見や要望を気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりがなされている。遠方で訪問できない家族には定期的に生活状況などを報告して意見をいただけるよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は直接話を聞いたり、申し送りノートを利用する事で常に職員の話聞くように努めている。必要時にはそれらの意見を代表者へ伝えている。	管理者は、月一回の会議や日頃からコミュニケーションを図り職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員が気軽に意見が記載できる申し送りノートを設け、管理者、職員双方の意見交換ができるような環境作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員間では日頃から話題にあげて話しているが、全てを代表者へ伝えるのはなかなか難しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は確保されており、職員の能力に応じた研修を受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所はどうしているのか・・・との思いは常にあり、研修等で知った事業所に訪問させて頂き話を伺ったりしている。県のGH協議会に加入しているが、研修の後訪問してもらった事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で接し、本人が安心して何でも言えるような雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一方的に事業所側の話をせず、まずは家族の話に耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな小さな事でも話してもらえようしっかりと話を聴くことで、本人家族が今何が一番困っているのか見定められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所は利用者にとっては自分の家、職員は家族の一員という気持ちで、又利用者は人生の先輩、先輩達からいろんな事を学ぼうという姿勢で接するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子を面会の時や電話等で伝えることで、本人の様子と一緒に喜んだり心配したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間に関係なくいつでも面会、外出、外泊ができるようにしている。なかなか面会に来れない家族には時々電話で近況を伝えたり、本人とも直接話をしてもらったりしている。	個々の状況にあわせ、家族とも連携し、墓参りや馴染の美容室への外出など一人ひとりの生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでいっしょに過ごせるようレク活動や食事、おやつ等をいっしょに楽しんで頂いている。利用者同士で会話をする場面もみられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夫との契約が終了(死亡にて)後、当事業所との関係を今度は妻の方で続けたいとの要望で入居している例がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の何気ない会話や様子等から本人の思いを理解できるよう努めている。今、センター方式を勉強中である。	利用者からの希望や意向は少ないが、日頃の関わりや会話の中で、少しずつ希望、意向を話していただけるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と昔話をしたり、家族や面会に来られる親戚の方等の話からこれまでの本人の暮らしを知ることに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の健康チェックや、その人の生活に寄り添う事で健康面や精神面を把握するようにしており、その人の有する力を見極められるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりその人らしい暮らしをして頂く為の介護計画を作成しようと努めているが、まだまだである。現在、センター方式を勉強中である。	モニタリングを月1回行い、3か月に1回ケアプランの見直しを行っている。計画は、本人や家族の思いや意向を把握し、ケアのあり方について担当職員と介護支援専門員で話し合い介護計画が作成されている。	ケアのあり方について全職員で話し合い、介護計画が作成できるよう取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行い、職員間で情報を共有するようにしている。今回、センター方式を学ぶことでより具体的な記録を行い、介護計画に反映しようとしているところである。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等で家族対応が困難な時には事業所に対応したり、必要な買い物等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員に、災害時に救援の必要な利用者がいることを知って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表者がかかりつけ医で週1回の訪問を受けており、常に連携がとれている。又、急変時や突発的な状況が生じた時等、適切な医療を受けることができている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、母体が医療法人であり、協力医療機関より往診も行われ、急変時にも対応できるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の職員に看護師が2人いる。又、病院からも定期的に訪問看護師に来てもらっており、必要時にはいつでも受診や看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在の利用者に入院の例はない。以前に近くの病院に入院したケースがあったが、職員が交代で様子を見に行き、常に病院の情報を得るように努め、短期間で退院する事になり、帰って来て頂いたことがあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変し終末期の介護を行うに至ったケースが1例ある。家族との話し合いは行ったもののあまりにも急なことで反省も多かった。この経験から早い段階からの取り組みが大切であると思った。	看取りについての方針やマニュアルはないが、利用開始にあたり家族との話しはなされている。	看取りについての方針の作成や、重度化、終末期に向け状況に応じた具体的な対応ができるよう取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応やマニュアルを紙面で示してはいるが、実践力にはまだまだ至っていない。急務な課題だと思っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に年2回の避難訓練を行っているが、今のところ事業所内だけで行っている。今後は隣近所の協力をと、運営推進会議においてお願いしたところである。	マニュアルを作成し、年2回の防災訓練を行っている。また、近隣も含めた防災訓練も計画されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げ、常に職員同士で声かけ合い実践に努めているが、時々気になる言葉かけをしている職員もおり、理念に対する意識付けを行っているところだ。	利用者への対応時は穏やかで、プライバシーを損ねないように十分配慮されている。また、個人情報についても記録物の管理など含め十分な配慮のもとに管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同じ目線で接する事に心がけ、本人の話にしっかり耳を傾け、表情や様子等から本人の思いを知るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務優先にならないよう職員同士で協力し合い、利用者優先に心がけるようにしている。休息や入浴等本人の希望に応じ、その人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や馴染みの美容室利用等本人の希望を聞き対応している。身だしなみは本人に任せているが、声かけの必要な利用者にはその人の思いを大切にお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる力を大切に、その人の能力を見極め、準備や後片付けを一緒に行っているが、まだまだ職員がしてしまうこともあり、職員の視点を変えていっているところである。	母体の医療法人が管理者と意見交換し、利用者の好みを把握して食事を作っている。同じ食卓を囲み一緒に同じ食事ができる環境までは至っていない。	職員が同じ食卓で同じ食事ができるよう取り組みを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は病院の厨房で作ってもらっており、義歯や歯のない方にも食べ易いように工夫された食事になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの利用者が声かけが必要であり、その人に応じて介助を行っている。これまでの習慣もありなかなか口腔ケアへの理解が得られない利用者もおり、根気強く声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員がトイレでの排泄を行っているが、時々場所がわからなかったり、間に合わなかったりする等あり、排泄前後の様子や排泄パターンを知る事により、声かけ誘導を行っている。	排泄の介助が必要な利用者は、排泄のチェック表を作成し排泄のパターンを把握している。また、適時個別誘導しトイレでできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の摂り方に加え、どうしても徐々に運動量も減ってくる為、便秘傾向になりがちである。毎日排便状況を把握し予防に努めているが、どうしても改善がみられない時は主治医に相談し、下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後に行っているが、時間を決めないで本人の希望やタイミングに合わせた入浴を心がけている。その人のペースに合わせて入浴して頂いている。	利用者の入浴したい日や時間にあわせ毎日入浴できるように配慮されている。利用者の状況に応じて足浴に変更したり、入浴拒否のある方にはさりげなく声かけし入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠できるよう、日中の心身の安定に気をつけている。日中にどうしても休息を取りすぎる利用者に対し、夜間もしっかり眠れるような対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からもらう、薬名や用法が書いてある紙を薬袋に貼っており、準備する時に見るようにしている。いつもと違う様子や症状に気付くよう心がけており、服薬は能力に応じ介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の会話の中で、利用者の若い頃の生活や仕事、趣味等を聞き出し、まだ残っている能力を活かしてお手伝いをして頂いたりしている。タバコやパソコン等を楽しんでいる利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の会話で行きたい所を話題にしたりして、ドライブや外食を計画実施している。又、家族の協力でいつでも外出外泊をして頂いている。	毎日の散歩や、定期的なドライブ、外食や買物など一人ひとりの希望に沿って外出支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金を家族から預かり、事業所で一括管理している。本人の希望に合わせていつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用できるようにしている。本人の希望がない利用者は職員の方から電話し、出て頂いている。書けない利用者は職員が代筆し、家族へ便りを出そうと葉書を出したところである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いながらも広い窓で施設内は明るい空間となっている。空調設備もあり、室内の温度は利用者が過ごし易いように調節している。施設周囲の花壇にはできるだけ季節毎の花を植え、散歩時に楽しんで頂けるようにしている。	利用者の共有空間は、ゆったりと過ごせる空間が確保されている。また、不快な臭いや音、光もなく適切に管理され安心して生活できる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人で過ごしたり、ホールでいっしょに過ごしたりしている。ホールではほぼ座席が決まってしまうが、隣同士で会話する様子もみられている。時々トラブルもみられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者にとって家であるということを職員がしっかり認識し、その利用者にとって本当に居心地の良い所となるよう整理整頓を手伝っている。	本人の持ち物や本人に関連した写真などの装飾を含め、その人らしい生活ができるような環境づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は狭い空間である為、目が行き届き常に利用者を見守れるようになってきている。手すりが取り付けられており、安全に歩いて頂いている。		